

〈再 録〉

木材腐朽菌 12 菌株に対する木材および処理木材の耐朽性

酒井 温子・角谷 俊和^{*1}・手塚 大介^{*1}・茂山 知己^{*2}・須貝 与志明^{*2}・新谷 岳史^{*3}・山口 秋生^{*3}

木材保存, 46 (4), 196-201 (2020)

日本産業規格 (JIS) 等の日本の試験規格では、木材および木質材料の室内耐朽性試験や、木材保存剤の室内防朽性能試験等において、オオウズラタケおよびカワラタケの指定された菌株が供試菌として定められている。しかし、自然界には多種類の木材腐朽菌が存在する。そこで、JIS 等における 2 種の指定菌株と、腐朽木材や子実体に由来する 10 種の分離菌株を用いて、スギ心材、ヒノキ心材、ヒノキアスナロ心材および加圧注入処理木材の耐朽性試験を行った。

その結果、大部分の菌株において、スギ心材 \geq ヒノキ心材 \geq ヒノキアスナロ心材の順で抗菌操作による質量減少率が低くなった。また、加圧注入処理木材については、いずれの菌株においても培養期間 12 週間で生じた質量減少率は 3%以下となり、指定菌株と分離菌株の結果にほとんど差はなかった。

したがって、今回検討した範囲では、オオウズラタケおよびカワラタケによる試験結果は、木材の耐朽性や薬剤の効力判定に関して、自然界の多くの木材腐朽菌の代表値として取り扱うことができると考えられた。

キーワード：心材、加圧注入処理木材、分離菌株、耐朽性試験

^{*1}兼松サステック株式会社^{*2}株式会社ザイエンス^{*3}越井木材工業株式会社